

植物多様性センターの「ひっつき虫の赤ちゃん」

秋にくさむらで鬼ごっこをして、セーターにたくさんチクチクした草のタネがついた思い出はありませんか？通称「ひっつき虫」、動けない植物が動物やヒトの力を借りて、種子を遠くに運ばせるという種子散布のシステムです。今はまだかわいい花が咲いて、できたての柔らかなタネもチクチクはしませんが、秋に向けてこっそり緑の鉤(かぎ)づめを研いでいます。



ダイコンソウ: 若い鉤づめの先にはS字状の安全装置つき



ヌスビトハギ: 盗人の足袋の先の形?の毛の生えた莢(さや)



ミズタマソウ: 開花中から子房には鉤づめがたくさん生えている



キンミズヒキ: 果実をとりまくように鉤づめが生えている